



# 三重の地名 あれこれ



地名にはその土地の歴史、風土、文化、人々の思いなどが垣間見えるものが多くあります。今回は、地名からその由来や地域の成り立ちを調べる資料を紹介します。

※地域資料室には、一部貸出ができない資料があります。

## 地名を調べる資料

資料名・著者・出版社	分類番号
『角川日本地名大辞典 24 三重県』「角川日本地名大辞典」編纂委員会/編, 角川書店	L/29/83/
時代ごとの地名の変遷が書かれている。山や川の名前、橋の名前なども収録。 巻末には小字一覧や藩府県沿革表などの資料編も収録。	
『日本歴史地名大系 24 三重県の地名』 平凡社, 1983	L/290//
その土地の歴史や文化などが書かれている。寺社名や史跡名からも検索できる。 巻末には、行政区画変遷なども収録されている。	
『なるほど日本地名事典 4』 蟻川明男/著, 大月書店, 2011	L/290//11
『三重「地理・地名・地図」の謎』 岡田登/監修, 実業之日本社, 2015	L/290//15
『市町村名変遷辞典』 地名情報資料室/編, 東京堂出版, 1993	L/29//
明治22年の市町村制施行以降の市町村の合併・編入など、地名の変遷について収録されている。	
『島の名前 日本編』 中村庸夫/文・写真, 東京書籍, 2005	L/290//06



I階参考図書コーナーにも、地名に関する資料があります。一部を紹介します。

『旧市町村名便覧』 日本加除出版/編集・発行, 2022	R/318.1//22/
『日本古代史地名事典』 加藤謙吉/編集, 雄山閣, 2018	R/291.0//18
『全国地名駅名よみかた辞典』 日外アソシエーツ/編集・発行, 2016	R/291.0//16
『遺跡・古墳よみかた辞典』 日外アソシエーツ/編集・発行, 2014	R/210.2//14
『三省堂日本山名事典』 徳久球雄/編集, 三省堂, 2011	R/291.0//13
『市町村名語源辞典』 溝手理太郎/編, 東京堂出版, 2001	R/291.0//01
『日本全河川ルーツ大辞典』 村石利夫/編著, 竹書房, 1979	R/517.2/79/

## よめる? 三重の難読地名

- ① 生琉里(伊賀市)
- ② 志氏(四日市市)
- ③ 小向(朝日町)
- ④ 有爾中(明和町)
- ⑤ 潟代(松阪市)
- ⑥ 長太(鈴鹿市)
- ⑦ 上津部田(津市)
- ⑧ 赤水(四日市市)
- ⑨ 縄生(朝日町)
- ⑩ 和無田(四日市市)
- ⑪ 潤田(菰野町)
- ⑫ 東鷹跡(津市)

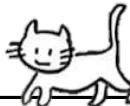
答えは、  
コチラ

- ① ふるさと
- ② しで
- ③ おぶけ
- ④ うになか
- ⑤ こいしろ
- ⑥ なご
- ⑦ こうづべた
- ⑧ あこず
- ⑨ なお
- ⑩ わんだ
- ⑪ うるだ
- ⑫ ひがしたかと

三重県立図書館HP > 三重の資料・情報 > 難読地名一覧 に

県内の難読地名、山・川の名前、史蹟、寺社、遺跡の名前などの一覧があります。

## 地図から調べる



『四日市のあらまし』 四日市市/発行, 2021

『三重県道路地図（県別マップル24）』 昭文社, 2024

『ゼンリン住宅地図 四日市市南/北』 ゼンリン/発行

地図からは、その地名の位置を知るだけでなく、索引や地図内の地名表記からヨミを知ることができます。

※いずれも地域資料室で見ていただくことができます。

國土地理院HP>地理院地図 では、画面左下の標高・住所を表示する矢印から、ヨミも分かります。

## 四日市の地名に関する資料

※『地区広報』や各地区的郷土史にも地名に関する記述があります。

資料名・著者・出版社	分類番号
『文化展望・四日市 第2~10号』 四日市市文化振興財団/編集・発行	L/051//
市内各地の地名由来や各地区の小字名などについて連載されている。	
『図書館の窓 1966-73』 四日市市立図書館/発行	L/01//73
「旧町名標示柱のしおり」(パンフレット) 四日市市/発行	中部地区
四日市中心地の旧町名、読み方、由来、範囲などが記されている。旧四日市市の地名については、「隨想 大字四日市の地名雑考」(『泗水 15』(四日市市立図書館/発行))にも記載あり。	

四日市市HP>四日市市の概要>地区別 地区・町名一覧 からもヨミを知ることができます。

## 地名のなぜ？

地名のふしき、疑問を調べてみたり、比較してみたりすると、新たな発見があるかも？



### 由来の種類もいろいろ

※地名の由来には諸説あります。

- ・伝説、言い伝えから →三重、杖衝坂
- ・自然、土地の様子から →瀬八丁、菰野
- ・人物から →いなべ、稻葉町
- ・産業から →四日市、万古町

### 字やヨミが二種類？

- ・「洲」「州」？ 例：富洲原地区 ⇄ 富州原町  
(『地区広報とみすはら No.38』(富洲原地区社会福祉協議会))
- ・「采」「采」？ 例：采女城 ⇄ 采女町  
(『うつべ歴史覚書』(稻垣哲郎/著, うつべ町かど博物館))
- ・「マイ」「マキ」？  
例：蒔田村(マイタ・マキタ両方) ⇄ 蒔田〇丁目(マキタ)  
(『日本歴史地名大系 24』(平凡社))

- ・西富(富)田町(にじとみだ)  
四日市(西富田)、鈴鹿(西富田)
- ・未広町(すえひろ)  
桑名、四日市、鈴鹿、津、尾鷲
- ・城山(町)(しろやま) 四日市、津
- ・京町(きょうまち) 四日市、松阪
- ・常磐(ときわ) 四日市、伊勢

四日市以外にも、同じ地名が！

### 地名から生まれた言葉

※言葉の意味は『広辞苑』(岩波書店)を参考にしました

- ・「関の山」(意味：なし得る限度、精いっぱい)  
← 関宿(亀山市)の祭の山車の豪華さから、また祭で街道が混雑する様子から  
(『三重の文化』(三重県教育委員会)、『三重「地理・地名・地図」の謎』(実業之日本社))
- ・「あこぎ」(意味：度かさなること、転じてあつかましいさま)  
← 阿漕浦(津市)で密漁をかさねた漁師の民話から  
(『三重県の地名』(平凡社)、『三重県の民話』(偕成社))

